

画廊(ギャラリー)は入りづらいつ感じる人も多いようだ、構える場所ではない。絵を見る自由な空間であり、入場料もいらぬ。作品が気に入れば一日いたっていいし、つまらないと思えばそのまま出ればいい。

画廊には単純に言って企画画廊と貸し画廊がある。双方ともひとつには絵画を売買する場だが、違いは大きい。企画画廊は自らが望む作家に依頼し、合意の上で、経費はもとより全般の責任を負って展覧会をかたち作る。中でも、有名無名を問わず良いものを世の中に発信しようと、熱意を持って孤軍奮闘する企画画廊は貴重だ。しかし、運営維持が難しいということがあり、残念ながら少ない。

画廊(ギャラリー)は入りづらいつ感じる人も多いようだ、構える場所ではない。絵を見る自由な空間であり、入場料もいらぬ。作品が気に入れば一日いたっていいし、つまらないと思えばそのまま出ればいい。画廊には単純に言って企画画廊と貸し画廊がある。双方ともひとつには絵画を売買する場だが、違いは大きい。企画画廊は自らが望む作家に依頼し、合意の上で、経費はもとより全般の責任を負って展覧会をかたち作る。中でも、有名無名を問わず良いものを世の中に発信しようと、熱意を持って孤軍奮闘する企画画廊は貴重だ。しかし、運営維持が難しいということがあり、残念ながら少ない。

乗れ越え踏ん張っている。愛媛で言えば町立久万美術館。僕の企画展を開いてもらったからというわけではないが、この小さな町の美術館がそんな姿勢を貫き、他館からも着目され、信頼を得ている。僕は最初から、画家への

画廊と美術館



てきた。それでも独りよがりには陥らず、作品を通して世の中と繋がる機会を持たのは、各地の画廊などが企画展を開いてきてくれたからこそであった。

一人でも多くの人の目に届けようと、思いを込めて一点一点大切に扱ってくれる気骨ある画廊。そこに訪れる、世評に囚われず自らの目で見つめ取り入れる。れよととする絵画ファン。心ある画廊や美術館は、作り手と見手を立ちし、相照らす出合いの場を創出してくるのである。

私事ですが、制作拠点である宇和島市の「べにばら画廊」で11月27日～12月4日、各地で展開中の水彩展を開きます。ギャラリーートークは11月30日です。ご来場ください。

(吉田 淳治・画家)